

一般社団法人 日本神経精神薬理学会
第 67 回理事会議事録

日 時 2017 年 9 月 27 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 20
場 所 札幌コンベンションセンター 104 会議室
(〒003-0006 北海道札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1)
出席理事 池田和隆、中込和幸、石郷岡純、井上猛、大隅典子、大森哲郎、菊地哲朗、曾良一郎、
成田年、新田淳美、橋本亮太、古屋敷智之、南雅文、宮田久嗣、山田清文、山脇成人
以上、16 名中 16 名出席
欠席理事 なし
出席監事 なし 2 名中 0 名出席
欠席監事 松田敏夫、西川徹
出席委員長 尾崎紀夫、宮川剛、渡邊衡一郎、齋藤卓弥
欠席委員長 内田裕之、徳山尚吾

議 長 池田和隆

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

議 案 :

報告事項

1. 前回理事会(第 66 回理事会議事録)、持回り理事会議決事項の確認がなされ、異議なく承認された。
2. 第 47 回年会(第 39 回日本生物学的精神医学会と合同開催)準備状況報告(南会長)
南会長から年会概要について報告がされた。
第 47 回年会(第 39 回日本生物学的精神医学会と合同開催)
テーマ: 脳と心のフロンティア ~ 「知」と「療」の連携
場 所: 札幌コンベンションセンター(北海道)
日 時: 2017 年 9 月 28 日(木) ~ 30 日(土)
会 長: 南 雅文(北海道大学大学院薬学研究院薬理学研究室)
・事前参加登録者が 474 名、招待者が 52 名である。
・懇親会参加者は 131 名、懇親会招待者は 48 名である。

3. 各種委員会報告

以下、提出資料に基づき、各種委員会報告がされた。

a. 執行委員会(池田委員長)

執行委員会の活動状況に関して以下の報告があった。

対面式会議またはスカイプ会議を毎月開催し、学会運営状況の確認と新規案件の検討などを行っている。今後も同様のペースで開催する予定であるため、執行委員会での要検討事項があれば随時審議可能である。

また、JSNP2019 が宮田久嗣大会長の下、福岡にて開催される旨が報告された。

b. 総務委員会(山田委員長)

2017 年 5 月 1 日から 2017 年 8 月 31 日までの会員動向について以下の通り報告された。

会員数	名誉会員	30 名
	功労会員	35 名
	評議員	267 名
	一般会員	765 名

学生会員	167 名
賛助会員	14 社
新入会	15 名
退会	14 名

また、法人会員に関する定款変更についての説明があり、評議員会での審議にかけられる旨が報告された。

c. 財務委員会（大隅委員長）

審議事項にて決算報告をおこなう旨が説明された。

d. 倫理委員会（尾崎委員長）

個人情報保護法の改正に伴う研究倫理指針の改訂への対応に関して報告があった。症例報告には患者本人の同意が必要であり、基本的に日本精神神経学会で定められたガイドラインに沿う形で、次回年会以降に適用する。

e. 編集委員会（宮川委員長）

新ジャーナルに関して以下の報告があった。

- ・Wiley 社と覚書を交わし、学会誌のオンラインジャーナル化に着手している。
- ・執筆要項の暫定版が完成し、学会 Facebook ページに掲載している。
- ・執筆要項は Wiley 社の標準的なものに準じているが、2 点ほど独自の要項を設けている。一つは、マイクロレポートであり、ごく短い形式での投稿が可能となっている。アブストラクトなどを含めて 2,000 語以内の制限となっている。もう一つは、他誌のフォーマットのまま投稿可能であること。
- ・投稿システム web サイトは現在立ち上げ中であり、11 月 1 日稼働予定である。また、投稿ページ開設に先立ち、メールでの論文投稿を受け付ける予定である。
- ・論文掲載料（Article Processing Charge (APC)）は下記となっている。

Review Article, Original Article

会員	1,900 ドル（内 100 ドルが学会収入）
非会員	2,280 ドル（内 480 ドルが学会収入）

Case Report, Micro Report

会員	1,250 ドル（内 100 ドルが学会収入）
非会員	1,500 ドル（内 300 ドルが学会収入）

また、APC が 66,000 ドルを上回った場合、収入の 20%が学会の収入となる。

- ・PubMed に掲載するにあたり、現在の日本語版のリニューアルとして申請する予定である。
- ・論文賞などをどうするか検討中である。

f. 国際学術委員会（新田委員長）

ACNP が 2017 年 12 月 3-7 日に開催されるが、参加および発表枠が AsCNP に対して 6 名分与えられた。6 枠に対して、16 名（うち日本人 15 名）の申込みがあり、AsCNP 理事会で協議の結果、以下の会員を派遣することとした。

加藤 隆弘、後藤 幸織、兼田 康宏、谷 英明、沈 武典、吉村 玲児

また、2018 年 6 月 16-19 日にオーストリア ウィーンにて開催される CINP 2018 に関して、AsCNP と合同でアジアナイトを 6 月 17 日の 19 時 30 分から開催することが決定した。

g. 広報委員会（橋本委員長）

学会ホームページの更新及び会員へのメール配信、マニュアル等の整備、薬剤師会員を勧誘するためのパンフレットの作成、統合失調症薬物治療ガイドラインの普及活動、CINP 2018 におけるアジアナイトに関して、活動報告された。

日本神経精神薬理学雑誌のオンラインジャーナル化にあたり、現在、機関誌でおこなわれている会員コミュニケーションの部分を、広報委員会に担当してもらいたいという要望が挙げられた。これに対し、広報委員会では、現在、編集できるメンバーがいないため、対応は編集委員会と協力の上、対応していくこととなった。

h. 企画委員会（井上委員長）

不安症治療ガイドラインの作成が企画された旨が報告された。

i. 学術選考委員会（曾良委員長）

優秀論文賞、学術奨励賞に関して報告がされた。

優秀論文賞は受賞論文なしである旨が報告された。

学術奨励賞は疋田貴俊氏（京都大学大学院）と山末英典氏（浜松医科大学）が受賞された旨が報告された。

JSNP Excellent Presentation Award に関して、臨床系の受賞が少なく、基礎系の受賞に偏っている問題が指摘された。これに対し、臨床系・基礎系それぞれ選出人数を規定することが提案され、承認された。臨床系・基礎系は会員登録時の申請内容によって選別する。

j. トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会（中込委員長）

活動報告された。課題、留意点として、COI の観点から、特定の治験に関する相談を受けた委員会の担当者は、企業側のアドバイザーの立場をとるため、治験を実施することはできないことに注意を要する。9月30日に委員会を開催し、委員会活動の枠組みを広げるよう議論を進める。

k. 薬事委員会（渡邊委員長）

薬事委員会に関して、活動内容が報告された。

l. COI 委員会（宮田委員長）

COI 委員会に関して、例年通り活動している旨が報告された。

m. 中枢薬専門薬剤師あり方検討 Working Group（徳山委員長）

徳山委員長が欠席のため、池田理事長より活動報告があった。また、薬剤師の会員勧誘に関して議論が行われた。

n. Nomenclature Working Group（内田委員長）

内田委員長が欠席のため、池田理事長より以下の活動報告がおこなわれた。

Neuroscience-based Nomenclature (NbN) タスクフォース会議に参加し、130の薬剤が収録された NbN Ver. 2、児童精神分野で使用される薬剤を収録した pNbN をリリースした。

欧州神経精神薬理学会 (ECNP) と連携し NbN Ver. 2 日本語版を作成中である。

新たな薬剤を NbN に収録するにあたり、本邦で使用可能な薬剤に関する情報を提供し、作成の一翼を担っている。

2017年4月28日バリにて開催された AsCNP にて講演をおこなった。

NbN タスクフォースメンバーとして、Lancet, Biol Psychiatry, Int J Neuropsychopharm, Neuropsychopharm などの主要学術誌に、NbN の採用を働きかけ、奏功した。

o. 統合失調症薬物療法ガイドラインタスクフォース（石郷岡委員長）

ガイドラインの改訂、ガイドライン簡易版の作成、ガイドラインの普及・教育・検証活動、ガイドラインの転載許諾ルールに関して報告があった。

p. PPPs タスクフォース（山脇委員長）

PPPs タスクフォースに関して、活動内容が報告された。

q. 会員交流促進タスクフォース（宮川委員長）

Facebook ページを立ち上げ、メール配信した内容を Facebook で掲載していることが報告された。また、現在、独自コンテンツとして学会 HP 更新のアナウンス、ニュースレター、学会賞の受賞日記、会員の研究室立ち上げの報告などのコンテンツを検討していることが説明された。

r. 先端研究推進基盤構築タスクフォース（成田委員長）

委員会の活動方針に関して、タスクフォースメンバーの中には積極的なメンバーが多く、先端研究推進基盤構築の方針に関して議論が交わされた旨が報告された。

s. 児童思春期神経精神薬理タスクフォース（齋藤委員長）

齋藤委員長が欠席のため、池田理事長より委員会に関する説明があった。当委員会の活動に当たり、小児はほとんどの薬剤が適応外あるいは禁忌であるといった理由から、十分な情報を得たうえで、慎重に活動を進める必要があるとの意見が出された。

t. 不安症治療ガイドラインタスクフォース（井上委員長）

日本不安症学会と連携し、不安症治療ガイドラインの作成活動をおこなっている旨が報告された。

第 46 回年会開催報告（池田理事長）

多数の参加者があり盛況であったこと、また、収支に関しても約 300 万円の黒字であったことが報告された。

第 48 回年会開催準備状況報告（中込会長）

以下の通り準備状況について報告された。
テーマ：精神薬理学のイノベーション創出
日 時：2018 年 11 月 14 日（水）～16 日（金）
会 場：東京ドームホテル（東京都）
会 長：中込 和幸（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）
同時開催：第 29 回日本臨床精神神経薬理学会（JSCNP）

第 49 回年会開催準備状況報告（宮田会長）

以下の通り準備状況について報告された。
テーマ：Neuropsychopharmacology to the next generation: New wave from Asia
日 時：2019 年 10 月 11 日（金）～13 日（日）
会 場：福岡国際会議場
会 長：宮田久嗣（慈恵医大精神医学）
同時開催：第 6 回アジア神経精神薬理学会（AsCNP）、第 29 回日本臨床精神神経薬理学会（JSCNP）

審議事項

1. 2017 年度決算報告について（大隅財務委員長）

2017 年度の決算報告について、適切に処理されていることが報告された。
また、欠席の両監事より監査をされたことが報告された。

2. 2018 年度収支予算案について（大隅財務委員長）

2018 年度の予算案について、確認がおこなわれ、承認された。

3. 名誉会員・功労会員推戴の件（山田総務委員長）

候補者が以下の通り報告され、承認された。

名誉会員： 大熊誠太郎、山本経之

功労会員： 赤池昭紀、朝倉幹雄、荒木博陽、國芳雅広、越川憲明、高田孝二、中山和彦

4. 新評議員の承認の件（山田総務委員長）

以下の13名が推薦され、審議の結果、新評議員として評議員会へ推薦することが承認された。

（敬省略）

押淵 英弘（東京女子医科大学精神医学教室）	推薦：池田 和隆／石郷岡 純
大塚 耕太郎（岩手医科大学神経精神科学講座）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
岩田 正明（鳥取大学医学部脳神経医科学講座）	推薦：白山 幸彦／池田 和隆
朴 秀賢（神戸大学大学院医学研究科精神医学分野）	推薦：井上 猛／曾良 一郎
熊野 宏昭（早稲田大学人間科学学術院）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
高塩 理（昭和大学医学部精神医学教室）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
大坪 天平（東京女子医科大学東医療センター精神科）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
朝倉 聡（北海道大学保健センター）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
清水 栄司（千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学）	推薦：池田 和隆／中込 和幸
伊賀 淳一（愛媛大学大学院 精神神経学講座）	推薦：上野 修一／橋本 亮太
新開 隆弘（産業医科大学 精神医学教室）	推薦：吉村 玲児／池田 和隆
堀 輝（産業医科大学 医学部 精神医学教室）	推薦：吉村 玲児／池田 和隆
安田 由華（生きる・育む・輝く メンタルクリニック）	推薦：池田 和隆／橋本 亮太

5. 新入会希望者承認の件（山田総務委員長）

2017年5月1日から2017年8月31日までに、正会員11名、学生会員4名、合計15名の入会申込があったことが報告され、全員が承認された。

以上

平成 29 年 9 月 27 日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長 代表理事 池田 和隆

出席理事 中込 和幸

出席理事 石郷岡 純

出席理事 曾良 一郎

出席理事 新田 淳美

出席理事 橋本 亮太

出席理事 古屋敷 智之

出席理事 山田 清文

出席理事 大隅 典子

出席理事 大森 哲郎

出席理事 菊地 哲朗

出席理事 成 田 年

出席理事 南 雅 文

出席理事 山 脇 成 人

出席理事 宮 田 久 嗣

出席理事 井 上 猛